

岳都・松本「山岳フォーラム 2013」公式本

山 考 読 本

特集

山について考えよう。

sanko dokuhon

vol. 1



森

から考える

原薫

(桧柳沢林業代表取締役)



最近気がついたことがある。それは「環境」という言葉の矛盾だ。「環」は「わ、〇」を意味しながら、なぜ「境界」を作ってしまうのだろうか。人は他の命をいただかなければ生きてはいけないわけで、感謝をしながらそのいのちと「ひとつ」になっていた。例えば木についても、家として道具として温もりとしていつもそばにいた。いつも一緒だった。そこには、犠牲という感覚は存在しない。食べ物ばかりやすくまに体の一部になるわけだが、木もまたしかりと思う。自然を山を傷つけることは、すなわち自分自身を傷つけることと同じであり、それらを周り(＝「環」と分け隔てている(＝「境」)以上、「環境問題」が解決されることはないのではなからうか。

今の日本の林業は、その作業のほとんどが「森林整備」だ。ヨーロッパなどでは「山」は専門の業者だけが働く場となっているそうだが、日本もそれに近づかざるを得ない制度



となつてはいる。しかし少し前まで、そこには木の文化に象徴される山と人との、生かしかされる関係が育まれていた。つまり、山のいのちをいだけることが、結果的に山を明るく風通しよく保つことにつながっており、それがいわゆる豊かな里山の風景を作り出していたのだ。

本来、自然の一部である人間。日本人の心が山から離れてしまったことで引き起こされている問題がたくさんあると感じる私は、木材生産や森林整備だけでなく、その狭い林業の枠を超えて、多くの人が山に誘い、自然と戯れる機会も提供したいと考えている。自然とひとつになるという



上 仕事の仲間と。前列中央が原さん 下 山では猫もっている

profile はら・かおる

1973年、神奈川県生まれ。筑波大学で生物化学を学び卒業後、江戸最後の木挽き職人の手記に感銘を受け、木材の一端から長野県に拠点を移し、現在、本市の柳沢林業代表取締役。経験と自分の個性を生かして林業と関わる。狩猟も行う。